

原水爆禁止 2014 年世界大会参加海外代表のプロフィール

平和運動団体代表・個人／Peace Movement Representatives & Individuals アジア・太平洋／Asia Pacific Region

マーシャル諸島/Marshall Islands

アバッカ・アンジャイン・マディソン（元上院議員、ロンゲラップ島民代表）

ロンゲラップ環礁選出のマーシャル諸島共和国元上院議員。ロンゲラップ島は第五福竜丸と共に死の灰を浴びた島で、被爆したロンゲラップ島の島民のたたかいを率いてきた故ジェットン・アンジャイン上院議員の娘。父と兄弟にあたるネルソンやジョンの意思を受け継いで、被ばく者の正義と補償のための支援を訴えてきた。現在、ロンゲラップへの帰島が大きな問題となっている中、島民の安全と将来のために、国内外で精力的に活動している。最近は 2005 年、2008-2010 年のビキニデー、2010 年 NPT ニューヨーク行動に参加。世界大会は、2006 年、2010 年、2011 年、2013 年に参加している。

グアム/Guam

リサリンダ・ナティビダド グアム平和正義連合会長

グアム大学助教授。在グアム米軍の拡大に反対し、チャモロ先住民の民族自決、女性の権利、社会、環境を守る活動を行っている。2009 年、グアムで開かれた軍事優先主義に反対する女性国際会議の責任者。グアムに貢献したソーシャルワーカーとして表彰される。2010 年ビキニデー、2011 年世界大会に参加。

フィリピン/The Philippines

コラソン・ヴァルデス・ファブロス（非核フィリピン連合 事務局長）

弁護士。30 年以上にわたって反基地、反核平和運動に関わる。現在「フィリピン戦争ストップ連合」の共同議長。フィリピンでの原子力発電を停止させ、在フィリピン米軍基地協定の拒否と撤去運動の中心を担った非核フィリピン連合の事務局長。また、外国軍事基地撤去国際ネットワーク調整委員会メンバー。「ノーニュークス・アジアフォーラム」と「軍事基地活動と環境正義に関する国際ネットワーク」のフィリピン担当コーディネーターでもある。「地上の命を守る女性の会」顧問をつとめるほか、平和女性パートナーズ、発展を目指す女性行動ネットワーク (DAWN)、フィリピン基地汚染除去タスクフォース、フィリピン主要宗教修道院長協会女性とジェンダー委員会などでも活動している。原水爆禁止世界大会には、1991 年以来ほぼ毎年参加。

マラヤ・ファブロス（非核フィリピン連合）

2011年世界大会に初参加。その際、国民平和大行進のことを知り感銘を受ける。建築家として9年間ドバイで勤務していたが、契約満了を機にフィリピンへ帰国。長らく暖めてきた平和活動に従事したいとの思いの第一歩として、平和行進への参加を決意した。2か月間で東京から京都まで歩き、日本の参加者に大きな励みを与えた。2013年世界大会と2014年ビキニデー集会に参加したあと、2014年国民平和大行進に国際青年リレー行進を提案し、海外青年行進者を組織。トップバッターとして弟のマジティング・ファブロス（2013年世界大会参加）が行進したあと、自身も奈良・大阪の行進で青年リレー行進旗を掲げて歩いた。



インド/India

マニシャ・ガウル（社会福祉・研究のためのローパンタラン協会 理事）

自己啓発を通して人生の向上をはかることを目的とする団体、社会福祉・研究のためのローパンタラン協会の設立者。平和活動家としても様々な平和活動に取り組んできた。2013年世界大会に初参加して平和行進の取り組みを知り、2014年国民平和大行進への参加を決意。国際青年リレー行進者として岡山～広島のコースを歩いて、世界大会に参加。



ヨーロッパ/Europe

ロシア/Russia

ミーリャ・カビロワ（チェリャビンスク核被害者組織「アイグル」 議長）



ロシアの15の軍需・核燃料施設のうちチェリャビンスク地方にある3つ施設のうち、最も老朽化し、ソ連初の原水爆が製造された場所でもあるマヤク工場の操業、事故による被ばくの補償と被害者救済を求め活動している。ミーリャは、広範な被ばくが明らかになった以降も住民が残ったムスルモボ村の出身。また、外国の使用済み核燃料の貯蔵・プルトニウムへの再処理を引き受ける施設建設の政府決定にも反対している。原水爆禁止世界大会には2001年以来参加し、旧ソ連の核開発の被害を世界に訴え続けている。ドキュメンタリー映画「不毛の地」に夫のゴスマン・カビロフさんとともに登場。

オレグ・ボドロフ（グリーン・ワールド [環境 NGO] 議長）

2012年世界大会に参加。物理エンジニア、環境保護主義者。大学卒業後は、原子力潜水艦の原子炉について研究・実験に従事していたが、ある事故をきっかけに核施設の安全性と環境への影響について研究を始める。86年にチェルノブイリ汚染地域を視察で訪れ、原子力安全に対する政府の情報制限や環境への影響を目の当たりにし、研究所を離れ環境運動に加わる。国民参加によ

る核のない未来、原子力と環境の安全性、再生可能エネルギーと省エネの促進を活動の中心としている。チェリャビンスクの核被害の実態を描いたドキュメンタリー映画「不毛の地」を制作。



イギリス/U.K.

アン・シュルテス（核軍縮キャンペーン 運動・組織担当）

アンは英国の多彩なコミュニティのなかでも特に青年の組織化の任務にあっている。この中で最近、いくつかの異なる宗教グループと協力して、核兵器に反対する様々な宗教者による遊説を組織した。現在は、目的を同じくする諸団体と協力して、長崎デーに、オルダーマストーンとバーフィールド両核兵器生産工場間の7マイルをピンク色の糸で編んだ平和スカーフを広げてつなぐ平和デモを組織しようと準備中。アンは各CNDグループと活動家と直接ともに行動するだけでなく、フェスティバル、大学キャンパス、主要なデモなどでCNDの存在を示すような行動を組織している。

フランス/France

フランス平和運動代表団：セアド・マアメディをはじめ27名（サン＝トゥアン地域から）

フランス平和運動は創立以来、断固として核兵器禁止を目指して活動し、軍縮全般にも取り組んできた。「戦争を作り出した人類は平和を作り出すこともできるし、その責任は私たちひとりひとりにある」と確信し、フランス平和運動は平和の文化を促進してきた。このため、核兵器の人的影響に関する会議、NPT準備委員会に参加して、フランスを含む多くの国々の大使たちにロビー活動を行ってきた。広島での世界大会への参加は、象徴的意味があるだけでなく、市民としての行動と献身を示すものである。

南北アメリカ/North & South America

アメリカ合衆国/U.S.A.

ジョゼフ・ガーソン（アメリカフレンズ奉仕委員会 ニューイングランド事務所責任者）

アメリカフレンズ奉仕委員会（AFSC）北東部地域のプログラム責任者であり、AFSC全体の軍縮コーディネーター。核戦争阻止と核兵器廃絶を中心に、米国主導のアジア太平洋地域の軍事化に対して平和で構成な代替案を作り、最も直近ではウクライナとイラクでの米国による戦争の防止に焦点を当て、教育・組織活動に力を注いでいる。2015年NPT再検討会議に向けた全米と国際的NGOの行動の調整を提唱し、現在その中心を担っている。アジア・太平洋平和と脱軍事化作業グループの議長、国際平和ビューローの運営委員、中堅国イニシアチブの運営委員会メンバーであり、NATO反対・戦争反対ネットワークの中核メンバーでもある。公民権運動、ベトナム反戦平和運動以来長らく正義と平和を目指す運動に関わってきた。核凍結運動の発足に尽力し、2010年NPT再検討会議国際計画委員会の共同議長もつとめた。著作に「帝国と核兵器：米国は世界支配のためにいかに核兵器を使っているのか」、



「ザ・サン・ネバー・セツツ―世界を覆う米軍基地」などがある。

ソフィア・ウォルマン（アメリカフレンズ奉仕委員会）



マサチューセッツ州ケンブリッジにあるアメリカフレンズ奉仕委員会でインターン中。専門はパレスチナ人民連帯運動の組織で、特にボイコットと投資引上げキャンペーンの展開に力を入れている。2012年シカゴでのNATO 対抗サミットと、「すべての人のための予算」住民投票キャンペーンの組織に尽力した。このキャンペーンは、マサチューセッツ州の市町村全部で、雇用と社会保障を守り、富裕層への増税、軍事支出削減を求めた住民投票運動である。アールハム大学で政治学を修了。

サリー・アイリーン・ジョーンズ（ピースアクションニューヨーク州基金議長）

サリー・ジョーンズは2002年、スタッテン島ピースアクション（ニューヨーク市内）を結成し、戦争と軍事化に反対し、核兵器廃絶を呼びかけて以来、活発に運動に関わって来た。ピースアクションはアメリカ最古の草の根平和団体で、全米に10万人の会員を持つ。現在サリーはニューヨーク州のピースアクション基金の議長を務めている。ニューヨーク州には4つの学生支部を含む18支部があり、州内の大学で学生支部を増やそうとしている。サリーはスカラスティックというこども向け本の出版社で経営アナリストとして働いている。スタッテン島のバックネル大学を卒業後、ニューヨーク市立大学大学院で比較文学の修士号を取得した。水泳、読書、書くことが好きで、地域社会の活動にも積極的にかかわっている。娘2人、息子2人の母親であり、孫が6人いる。ジャズピアニストの夫デイビッドも多くの社会活動に参加している。



国際・地域団体／International & Regional Organizations

ライナー・ブラウン（国際平和ビューロー 共同会長／ドイツ反核法律家協会 執行理事／地球的责任のための技術者・科学者ネットワーク）

2006年からドイツ反核法律家協会の執行理事を務め、2010年からは国際反核法律家協会、ドイツパグウォッシュ会議の執行理事。アフガン戦争でのNATOの役割やNATOの核戦略をきびしく批判しており、最近では5月にシカゴで行われたNATO 対抗サミット行動を組織した中心的リーダー。ドイツからの米国配備の核兵器の撤去運動にも取り組む。2013年より、国際平和ビューローの共同議長。2012年世界大会に参加。